

奈良吉野 黒滝村山林見学ツアー報告書

平成 26 年 7 月 19 日

作成者名 大河内 信行

1. 活動場所 : 奈良県吉野郡黒滝村
2. 活動日 : 平成 26 年 7 月 19 日 天候 晴のち曇り
3. 参加者 : 会員 瀧口 瀧口朱 松永 蒲田 高崎 小坂 長谷川 館 上林 大河内
計 10 名
ツアーガイド 出来杉計画 梶谷さん

⊗事前安全対策 : ☐準備体操、☒打ち合わせ、☐明確な指示、☐KY 確認、☐服装点検、

4. 活動内容 :

- ・各地から 11 時に道の駅 大宇陀に一旦集合し、正午前に梶谷さんとの待ち合わせ場所となる道の駅 黒滝に到着。早速、食堂で昼食。
- ・12 時 50 分 梶谷さん到着。本日の見学コースの説明を受ける。
- ・3 台に分乗し、各所の施業地を案内して頂いた。
- ・各施業地では、いろいろと貴重な話がたくさん聞けた。参加者は皆、充実した一日となったと思われる。16 時 50 分には、現地解散となった。
- ・梶谷さんからの貴重な話の詳細は、添付写真コメントを参照。

今後の展開 :

☐活動振り返り

■連絡事項

11/22, 23 に梶谷さんによるレベルアップ研修会 伐倒強化講習を開催しますので、参加希望の方は申し込みをお願いします。担当 : 大河内、中橋。

5. 活動写真



この日、午前中にヘリコプターによる集材をしていたとのことで、写真は集材された土場。ヘリコプターではワイヤー1本で丸太を縦に吊り、土場まできたらホバリングしたままワイヤーを外すので、土場の丸太は乱雑に積まれる。

伐倒地から土場までのヘリコプターでの移動時間は1分程度。それくらいの距離でないと、ヘリコプターを使っでの集材は採算が取れないそうです。

集材する材は、8 m、10 mと長いままで、1本ずつが基本だそうです。

この日の樹種は、杉と槇でした。



土場では、太いのはチェーンソーで4 mに造材し、それ以外は8 m、10 mのままトラックに積み込んでいました。積み込むのに活躍していたのが、トラック後尾に搭載された重機。材を傷付けないように、慎重な操作が要求されます。



こっちのトラックには、長いまま（8 m、10 m）のも積み込んでいました。



ここがヘリコプターで材を運び出していた施業地。

87年生の杉林でした。8 mまでしっかりと枝打ちされています。

胸高直径は40 cm前後？（詳しく測っていないので見た感じ）

今回の材出しは、太くて価値のある材を優先したということで、残っているのは少し小ぶり？



87 年生の証拠写真。実際に年輪を数えたら、84 本位の年輪がありました。

ちなみに、伐倒したのは半年前で葉枯らし乾燥していたそうです。なので、伐倒方向は山側。

葉枯らし乾燥させるのは、材の乾燥はもちろんですが、杉材の色を調整するためでもあるそうです。赤身をきれいなピンク色にするために。専門用語では、渋を抜くと言うそうです。



見て回ったところは、どこも枝打ちが 8 m までされているところが多かった。吉野の蜜植して、節のない、目の詰まった木材を生産するという施業を肌で感じた気がした。

梶谷さんも、ここ 3, 4 年は国の方針である 3000 本/ha の植林をするらしいが、それまでは 6~7000 本/ha の植林をしていたそうです。



左の 2 つの写真は、梶谷さんの所属する森林組合で作った作業道。支線になるそうです。勾配もあまりきつなく、何度も通うには者にとっては優しい造りになっています。

小径の丸太を使って、道の両端の土留めをしています。

丸太は 8 寸釘で固定するそうです。



黒滝村の主要産業？の一つとなる高野槇の育林です。
至るところにありました。
枝葉を収穫するので、あまり大きくは育てないそうです。

以上